

令和7（2025）年度 資源評価調査報告書（拡大種）

種名	アサリ	対象水域	太平洋中・南部 (千葉県・東京都・静岡県・愛知県・三重県・高知県)
担当機関名	水産研究・教育機構 水産技術研究所 環境・応用部門 沿岸生態システム部、千葉県水産総合研究センター、東京都島しょ農林水産総合センター、静岡県水産・海洋技術研究所、愛知県水産試験場漁業生産研究所、三重県水産研究所、高知県水産試験場	協力機関名	

1. 調査の概要

千葉、東京、静岡、愛知、三重、高知の各都県において、漁獲量等の情報収集を実施した。

静岡県と三重県では県独自の資源評価を公表しており、その調査結果を引用した。

千葉県は県独自の資源評価を実施しているが公表していない。

漁業・養殖業生産統計年報（農林水産省）における魚種別漁獲量統計の「あさり類」には、国内に分布するアサリ属貝類であるアサリとヒメアサリの2種が含まれるが、ヒメアサリはほとんど漁獲されないため、「あさり類」の漁獲量統計が利用可能である。

2. 漁業の概要

千葉県では、東京湾沿岸の三番瀬、木更津および富津地区が主漁場である。漁具・漁法としては主に腰まきや大まきであるが、富津地区では潜水器を用いることがある。

静岡県では、浜名湖内の鷺津、村櫛、庄内地先が主漁場であったが、現在は庄内地先のみである。じょれん（長柄、おかがき）を用いた人力採集が主体である。

愛知県では、伊勢湾東岸および三河湾沿岸が主な漁場である。漁具・漁法は地区により異なるが、主に小型機船底びき網、腰マンガ、長柄マンガ、手掘りである。

三重県では、伊勢湾西岸の桑名から伊勢までの地区が漁場であったが、現在は伊勢および松坂地区の漁獲量が減少し、鈴鹿地区が主な漁場である。漁具・漁法は地区により異なり、主に小型機船底びき網、じょれん、長柄である。鈴鹿地区では水深3～5 mの潮下帯の漁場における小型機船によるポンプ桁網が主である。

2024年の漁獲量は千葉県で200トン、静岡県で0.18トン、愛知県で1,100トン、三重県で200トン、高知県は事実なしであった（図1、2）。また、東京都は2023年に34トン（図2）であった。各県の漁獲量を表1に纏めた。

3. 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：南西諸島を除く日本列島全域の干潟域等、主に内湾の水深 10 m 以浅の砂・礫・泥から転石帯に生息する（伊藤 2002、Johnson et al. 2025）。外洋に面した浜では同属のヒメアサリが生息する（Tezuka 2025）。浮遊期の分散は海況に影響され、幼生が親貝と同じ漁場に加齢するとは限らない（Hinata and Furukawa 2006）。
- (2) 年齢・成長：受精後 2～3 週間程度の浮遊幼生期間を経て殻長 0.2～0.3 mm で着底する（伊藤 2002、浜口・手塚 2007）。東京湾での最大殻長は 70 mm、1～3 年で漁獲対象となる殻長 30 mm に成長するが、成長の地域差および年変動は大きい（柿野 2021、全国沿岸漁業振興開発協会 1997、Toba et al. 2025）。
- (3) 成熟・産卵：最小成熟サイズは、東京湾では殻長 16 mm（鳥羽・深山 1994）であり、本州以南は北海道よりも小型で成熟するとされる（松本ほか 2014）。成熟は温度や餌料等の環境条件の影響を受ける（鳥羽ほか 1992）。基本的に雌雄異体で性比は 1:1 である（松本ほか 2014）が、ミトコンドリア遺伝子は特異な両性遺伝を示す（Passamonti and Plazzi 2020）。産卵期は東京湾以南では概ね春～秋の間である（松本ほか 2014）。
- (4) 被捕食関係：ろ過食者であり主要な餌は微細藻類等の懸濁態有機物であるが（Houki et al. 2025）、浮遊幼生は 1～8 μm の微細藻類等を餌料としている（Tezuka et al. 2009）。摂餌にともない貝毒を蓄積する場合がある（Ozawa et al. 2025）。魚類・鳥類・巻貝などによる食害、寄生生物による被害が問題となっている（重田・薄 2012、鳥羽 2017、Waki et al. 2018、酒井 2000、柿野 2021、Tezuka 2025）。

4. 資源状態

静岡県独自の資源評価（2025年度）によると、浜名湖の資源水準は「低位」、動向は「減少」と評価。

三重県の県独自の資源評価（2022年度）によると、鈴鹿地区の資源水準は「高位」、動向は「増加」、松坂地区の資源水準は「低位」、動向は「減少」と評価。

漁獲量を資源量の指標値とできるかどうかは、地域によって異なり、さらに詳細な検討が必要であるため、資源水準および動向について統一的な評価は困難である。

5. その他

地理的分布域は広範囲であり、自然状態では幼生期以外に広範囲の移動を行わないため生物学的特性の地域差が大きい。

天然資源の減少に伴い、稚貝の移殖放流と輸入種苗の利用が検討された。現在は、砕石覆砂など土木的環境改変を含め、採苗器や被覆網など増養殖手法の開発と適用が進められている（水産庁 2023）。

天然資源の変動には、漁場環境の変化の影響が大きいとの指摘がある（鳥羽 2017、柿野 2021、蒲原ほか 2021、Kurihara et al. 2025）。漁場における親貝量と次世代の加入量の関係は明らかでない（鳥羽ほか 2022）。

静岡県では、漁獲量制限、禁漁期の設定、殻長制限のほか、被覆網などによる捕食圧

の低減対策が行われている（静岡県 2025）。

愛知県では、殻長制限のほか、天然稚貝移殖や操業日、操業時間の制限等の自主的資源管理が行われている（山田 2016）。

三重県では、漁獲量制限、休漁日の設定、殻長制限、移殖放流などの漁獲管理がなされている（三重県 2022）。

高知県では、浦ノ内湾にて被せ網等の設置による漁場管理の活動が実施されている。

6. 引用文献

- 浜口昌巳・手塚尚明 (2007) アサリ浮遊幼生の分散と着底. *Sessile Organisms*, **24**, 69-79.
- Hinata H. and K. Furukawa (2006) Ecological network linked by the planktonic larvae of the clam *Ruditapes philippinarum* in Tokyo Bay. In. *The Environment in Asia Pacific Harbours*, ed. E. Wolanski, Springer, Netherland, 35-45.
- Houki S., M. Ozaki, and N. Sano (2025) Ontogenic shift of feeding habit in Manila clam *Ruditapes philippinarum* after settlement revealed by diatom specific DNA-metabarcoding diet analysis. *Estuar. Coast. Shelf Sci.*, **319**, 109244.
- 伊藤 博 (2002) アサリとはどんな生き物か: アサリの生態, および漁業生産の推移. *日本ベントス学会誌*, **57**, 134-138.
- Johnson A., A. E. H. Bridges, and A. M. Knights (2025) Predicting the future distribution of a commercially important clam (*Ruditapes philippinarum*) in a changing climate. *Estuar. Coast. Shelf Sci.*, **320**, 109307.
- 柿野 純 (2021) 東京湾の環境とアサリ漁業の 40 年. 青娥書房, 東京, 195 pp.
- 蒲原 聡・芝修一・鶴島大樹・鈴木輝明 (2021) 三河湾のアサリ *Ruditapes philippinarum* の成育と全窒素・全リン濃度の経年変化との関連. *水産海洋研究*, **85**, 69-78.
- Kurihara T., T. Nakano, Y. Kuroki, J. Uchikawa, N. Ikushima, and H. Nasu (2025) Year-to-year density fluctuations in clams *Ruditapes philippinarum* linked to wind-induced disturbance during juvenile to sbadult stages. *Mar.e Ecol. Prog. Ser.*, **758**, 43-60.
- 松本才絵・淡路雅彦・日向野純也・長谷川夏樹・山本敏博・柴田玲奈・秦 安史・櫻井 泉・宮脇 大・平井 玲・程川和宏・羽生和弘・生嶋 登・内川純一・張 成年 (2014) 日本国内 6 地点におけるアサリの生殖周期. *日本水産学会誌*, **80**, 548-560.
- 三重県 (2022) 三重県沿岸水産資源の資源評価 アサリ <https://www.pref.mie.lg.jp/SUIKEIEI/HP/m0115800018.htm>
- Ozawa M., H. Uchida, S. Numano, R. Watanabe, R. Matsushima, M. Iwasaki, and T. Suzuki (2025) Differential accumulation of dissolved azaspiracids and diarrhetic shellfish toxin in Manila clam (*Ruditapes philippinarum*): effects of temperature and tissue-specific uptake. *Estuar. Coast. Shelf Sci.*, **323**, 109416.
- Passamonti M. and F. Plazzi (2020) Doubly uniparental inheritance and beyond: The contribution of the Manila clam *Ruditapes philippinarum*. *J. Zool. Syst. Evol. Res.*, **58**, 529-540.
- 酒井敬一 (2000) 万石浦アサリ漁場におけるサキグロタマツメタガイの食害について. *宮城県水産研究開発センター研究報告*, **16**, 109-111.

- 重田利拓・薄 浩則 (2012) 魚類によるアサリ食害ー野外標本に基づく食害魚種リストー. 水産技術, **5**, 1-19.
- 静岡県 (2025) 県内主要魚種の動向 (県内版資源評価) アサリ https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/02fishery/2-5/22_asari.pdf
- 水産庁 (2023) 有明海におけるアサリ等生産性向上マニュアル https://www.jfa.maff.go.jp/j/kenkyu/attach/pdf/ariake_asari-2.pdf
- Tezuka N. (2025) Increased impact of predators and coastal warming on *Ruditapes philippinarum* populations in Japan. *Estuar. Coast. Shelf Sci.*, **317**, 109201.
- Tezuka N, E. Ichisaki, M. Kanematsu, H. Usuki, M. Hamaguchi, and K. Iseki (2009) Particle retention efficiency of asari clam *Ruditapes philippinarum* larvae. *Aquatic Biology*, **6**, 281-287.
- 鳥羽光晴 (2017) アサリ資源の減少に関する議論への再訪. *日本水産学会誌*, **83**, 914-941.
- 鳥羽光晴・深山義文 (1994) 飼育アサリのサイズと成熟、産卵の関係. *日本水産学会誌*, **60**, 173-178.
- Toba M., Y. Kobayashi, T. Hayashi, and Y. Kagami (2025) Possible processes responsible for the decline in the stock of Manila clam based on long-term observations in Banzu tidal flat. *Estuar. Coast. Shelf Sci.*, **318**, 109232.
- 鳥羽光春・小林豊・柿野純・柴田輝和 (2022) アサリ親貝豊度は稚貝豊度にとって重要か? 東京湾三番瀬における卓越群の再生産を参照して, **86**, 166-179.
- 鳥羽光晴・夏目 洋・山川 紘 (1992) 東京湾産アサリの成熟と産卵に関する二, 三の知見. *水産工学*, **29**, 47-53.
- Waki T., M. Takahashi, T. Eki, M. Hiasa, K. Umeda, N. Karakawa, and T. Yoshinaga (2018) Impact of *Perkinsus olseni* infection on a wild population of Manila clam *Ruditapes philippinarum* in Ariake Bay, Japan. *J. Invertebr. Pathol.*, **153**, 134-144.
- 山田 智 (2016) 三河湾一色干潟におけるアサリの資源管理-広大な漁場におけるアサリ資源管理の成功例-. *豊かな海*, **38**, 57-60.
- 全国沿岸漁業振興開発協会 (1997) 沿岸漁場整備開発事業増殖場造成計画指針 ヒラメ・アサリ編 平成8年度版, 全国沿岸漁業振興開発協会, 東京, 316 pp.

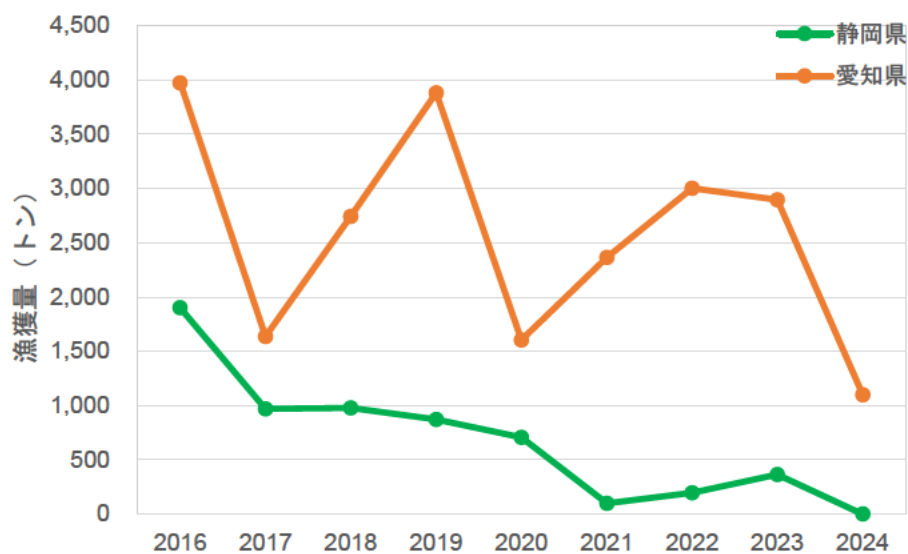


図1. 静岡県と愛知県におけるアサリ漁獲量の推移*

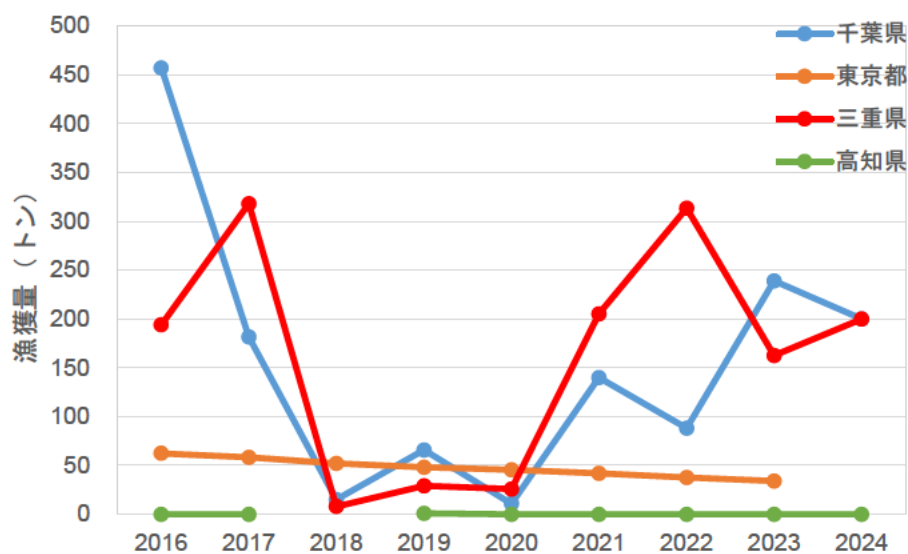


図2. 千葉県、東京都、三重県および高知県におけるアサリ漁獲量の推移*

表 1. 各県の漁獲量（トン）の年変化*

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
千葉県	457	182	15	66	11	140	88	239	200
東京都	62	58	52	48	46	42	38	34	
静岡県	1,901	968	978	872	707	100	196	363	0
愛知県	3,973	1,635	2,741	3,880	1,602	2,364	3,001	2,896	1,100
三重県	194	318	8	29	26	205	313	162	200
高知県	0	0		1	0	0	-	-	-

*魚種別漁獲統計に基づく漁獲量データ。2024年は暫定値